

2年 B 組 技術・家庭科授業案

日 時 令和5年 11 月 10 日(金) 10:10～11:00
 場 所 島田市立六合中学校 体育館
 授業者 波平 美也子

1 題材名 わたしの消費行動がもつ力 (2/4) C(2)(3)

2 題材の目標

消費者の権利と責任について学習し、自分の消費行動には社会を変える力があることを実感した生徒が、自分たちの消費行動とそれに伴って発生している社会問題などについて資料から読み取り、自分は消費者としてどのような行動を取るべきかを考える活動を通して、持続可能な社会の構築のための責任ある消費行動について、多面的・多角的に考察する。また、家庭での実践を通して、消費者市民社会の担い手として、自覚をもって環境や社会に配慮した消費行動ができるようになる。

(1) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解し、環境に配慮した消費生活を考えることができる。 【知識及び技能】

(2)

・自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

C(2)【思考力、判断力、表現力等】

・自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

C(3)【思考力、判断力、表現力等】

(3)

・よりよい消費生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

C(2)【学びに向かう力、人間性等】

・家族や地域の人々と協働し、持続可能な社会を構築するために、環境や社会に配慮した消費生活の実現に向けて、自分や家族の消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。

C(3)【学びに向かう力、人間性等】

3 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
C(2) 1・2 時	・消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	・自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や実践しようとしている。

C(3)		・自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、自分や家族の消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。
3・4	時		

4 題材構想

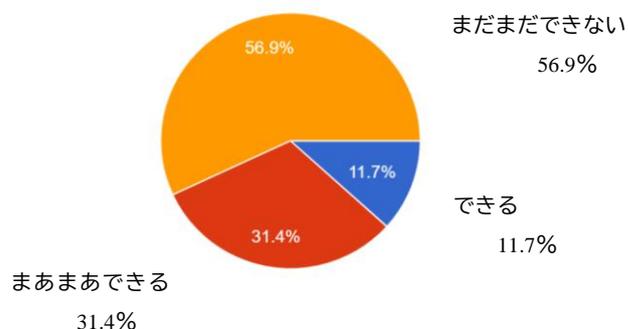
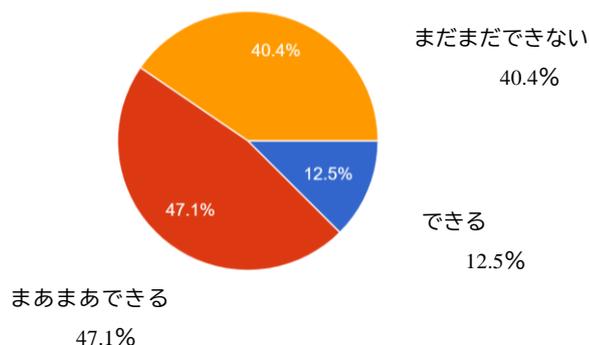
(1) 生徒の実態

生徒が日常生活においてどのような消費行動を行なっているか、また自分の消費行動による環境への影響についてどの程度関心があり理解しているか、事前アンケートを行なった。(第2学年137人)

「買う前に必要な物か考える」、「情報を慎重に判断する」、「断る意思を伝える」などの項目では、「できる」と「まあまあできる」をあわせた数値が9割前後となっており、小学校での学びが定着している実態や、自分にとってよりよい消費行動をとることについての意識の高さがうかがえる。一方で、「不満がある場合対応してもらおう」や、「買い物は投票という意識をもつ」においては「まだまだできない」と回答した生徒が4割以上おり、本題材における学習を充実させる必要性を感じた。

商品やサービスに不満がある場合、相手に的確に状況を伝え、対応してもらおう。

「買い物は投票」という意識を持ち、購入する商品がどこで、どのように生産されているのか気にする。



(2) 題材観

本題材は、「C消費生活・環境」の(2)「消費者の権利と責任」の学習について、「B衣食住の生活」、C(3)「消費生活・環境についての課題と実践」の学習との関連を図り、扱ったものである。

学習指導要領解説には、消費者の権利と責任の扱いについて、『この学習では、「B衣食住の生活」の(3)「日常食の調理と地域の食文化」における食品の選択や、(4)「衣服の選択と手入れ」における衣服の計画的な活用、(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」における衣服等の再利用の方法の学習などとの関連を図るようにする。』と示されており、内容Bと関わらせて扱うことが求められている。

そこで、本題材では、(2)の「消費者の権利と責任」の学習を単独で扱うのではなく、内容B、内容C(3)との関連を図り、学びをつないで実施することとした。

学習指導要領においては、「消費者市民社会の担い手として、自覚をもって環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎を培う」ことが求められている。また、消費者庁においても、消費者市民社会を目指す消費者教

育を推進している。消費者教育推進法では、消費者市民社会について、「消費者が、個々の消費者の特性及び消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって、内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会」と定義している。

今までの消費者教育では、消費者は「必要なものや欲しいものを自分で決める人」であった。しかし、これからの社会では「社会・経済・環境に影響を与えることができる消費者」の育成が求められる。

そこで、本題材においても、今までの消費者教育から消費者市民社会を目指す消費者教育へとアップデートすることを意識して題材構成を考えた。消費行動は投票と同じように、「一人一人の消費生活の在り方によって環境や社会に影響を及ぼす」ものであることを自覚して考えることができるよう、題材を貫くテーマとして「わたしの消費行動がもつ力」を設定した。題材のつながりの中で常にこのテーマに立ち返って、話し合い活動、振り返り活動、実践計画などの学習を行うようにした。そうすることで、自分自身の消費行動だけでなく、社会・経済・環境と自分との関わりを意識できるようにしていきたい。

前題材である内容B衣生活の学び(Do)の中で、綿花栽培における児童労働や環境破壊、衣料品の大量廃棄、衣料品における通販トラブルなど、消費生活と関わりのある授業を実践し、その中で、自らの消費生活の課題に気付くことができるようにしておく。学びのつながりを意識して指導計画を立てることで、限られた時間の中で実践的な態度を養うことができるよう工夫した。

本題材では、自分にできることを考えて題材を終えるのではなく、C(3)課題と実践につなげる。本題材第3時において、課題解決のための実践計画を立て、その後、自分の立てた計画に従って家庭実践(Action)を行う。

計画の段階では、世界を変えるために自分はどのような消費行動をしたらよいかについてSDGsの視点を持ちながら考察し、家庭実践では、家族や地域の人々とどのように関わり、協働していけばいいかを考えて実践するなど、様々な「他者」との関わり合いを意図的に組み込んでいく。

本題材第4時において、「世界を変えるために自分にできること」の実践報告会を行い、自分自身の実践について振り返ったり、友達の報告を聞いて新たな視点を得たりすることができるようにする。多面的に消費行動を評価・検討する(Plan)ことで、より深く題材と向き合い、持続可能な行動(次の「Do」)のための、新たな計画(Plan)へとつなげていきたい。

(3) 授業観

第1時では、消費者の基本的な権利と責任、わたしたちの消費行動が環境や社会に及ぼす影響について理解することを目的とする。

まずは、わたしたちの消費生活を支えるものとして、消費者の基本的な権利と責任があることを知る。そして、内容Bとの学びのつながりから、オーガニックコットンを例に挙げ、「オーガニックコットンのタオルを買う」という消費行動は、どんな消費者の権利と責任と関わりがあるかを考える。生徒は、内容Bで学んだことを基盤としながら、安全である権利、知らされる権利、選ぶ権利、社会的関心をもつ責任、環境への自覚責任などをあげるであろう。あがった意見について、それを認め、価値付けをしていく。

そして、「消費者の権利と責任がある社会と、権利と責任がない社会はどんな違いがあるだろう」という学習問題を提示する。自分の意見をまとめた後グループになり、話し合い活動を通して自分の身近な消費行動が消費者の権利と責任と関わっていることを理解できるようにしたい。生徒の理解を深めるために、

- ・ポテトチップスには、味や大きさなど、様々な種類がある(選ぶ権利)
- ・2Lのペットボトルにはしっかり持てるようなへこみがついている(意見が反映される権利)
- ・食品にはアレルギーの表示がある(知らされる権利)

といった具体的な場面の例を提示し、権利と責任がない社会だけでなく、権利と責任がある社会にも注目して考え、安心して消費行動ができることや、商品がよりよく改善されていくこと、環境問題の解決につながることなど、自分たちの消費行動が環境や社会に及ぼすプラスの影響を考えられるようにしたい。

その上で、もう一度「オーガニックコットンのタオルを買う」という消費行動に戻り、今度はコットン生産者にとってどんな権利と責任に関係があるのかを考える。コットン生産者の生活の基本的ニーズが保障される権利や健全な環境の中で生活する権利に関わりがあることに気付く生徒もいるであろう。この発問により、消費者が責任ある消費行動を取ることで、他者の権利が守られることに気付けるようにしたい。

最後に、わたしたちの消費行動は投票と同じであることを伝え、「わたしたちの消費行動が変わると〇〇が変わる」の〇〇に入ることを考えさせる。生徒は「社会」「未来」「世界」「環境」などのことばを考えるであろう。自分の消費行動には、これらのものを変える力があることに気づき、第1時を終わりたい。

第2時では、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫させることを目的とする。

まずは前時の復習として、「わたしたちの消費行動には社会を変える力がある」ということをおさえ、本時の学習問題である「世界を変えるために、わたしたちはどんな消費行動をすればよいのだろうか」を提示する。

生徒の多様な意見を引き出すために、エキスパート学習とジグソー学習で学びをつなげ、広げていく。エキスパート学習でのヒントカードとして下記のような写真を提示する。

- ・【地球温暖化】たくさんの電化製品を使っている現状（光）とCO₂の排出がもたらす現状（影）
- ・【石油製品】家庭内のプラスチック製品（光）と海岸漂着物（影）
- ・【児童労働】チョコレート（光）とカカオ農園での児童労働（影）
- ・【食品ロス】スーパーの品揃え（光）と飢餓に苦しむ子供（影）

わたしたちの消費行動に関わる光の部分（享受している便利で快適な生活）と影の部分（便利で快適な生活のために起こっている世界的な課題）をヒントにすることで、世界をよりよく変えるためにどのような消費行動をとればいいのかを考えられるようにしたい。

生徒は内容Bにおける学びや小学校におけるSDGsの学び、中学校2年生理科における自然の法則でのコラム掲載、総合的な学習の時間におけるSDGsに関わる探究活動から、自分の消費行動と世界的な課題には関わりがあることに気付いている。そのため、どんな世界的な課題があるのかということよりも、それらの課題を解決するための責任ある消費行動を考えることに重点を置く。

クロストークで意見交換をした後で、「それらの消費行動は、本当にできるのか、続けられるのか」を問う。今までの学びから、生徒は「フェアトレード商品を買う」「オーガニック製品を買う」などの消費行動を考えることが予想される。しかし、持続可能な社会の構築のためには、自分にできる、身近な消費行動を継続させていくことが大切である。フェアトレード商品やオーガニック製品は、生徒にとっては身近なものではないことも多い。そこで、半額シールの貼ってある商品を買うことが、食品ロスを防ぐ「世界を変えるための消費行動である」ことを例に挙げ、「本当にできること」をもう一度考える。この発問によって、生徒は、自分にとって身近な商品の購入場面の中から、「すぐに食べるものは手前取りする」、「詰め替えられる商品を買う」、「捨てずにリサイクルに回す」などの、実現・持続が可能な消費行動を考えられるようになるであろう。消費者の責任ある消費行動をとるという意欲をもたせ、自立した消費者としての意識を高めて第2時を終わりたい。

第3時では、第2時で考えた世界を変えるために自分ができる消費行動の中から、実践可能な課題を選び、具体的に計画を立てていく。計画の段階では、自分の消費生活が環境や社会に及ぼす影響などについて考えたり、調査や実験などの実践的・体験的な活動を充実させたりできるように留意する。

第4時は、家庭での実践期間を設けた後で、報告会を行う。お互いの実践を報告し合う中で、自分の活動を振り返って評価するだけでなく、友達の報告から新たな課題を見つけ、「これなら自分にもできそう」と次の実践につなげることができるようになっていきたい。

5 題材計画(4時間)

- | | |
|---------------------------------|-----|
| [1] 消費者の権利・責任と社会とのかかわり | 1時間 |
| [2] 持続可能な社会の構築に向けて | 1時間 |
| [3][4] 消費者としての責任ある消費行動の計画と実践、報告 | 2時間 |

小題材	時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前題材	0	○前題材の学習で自分の消費生活と関係のある世界的な諸問題(フードロス、フードマイレージ、衣服の大量廃棄など)を扱う。		①自立した消費者としての責任ある消費行動について問題を見いだして課題を設定している。	
消費者の権利・責任と社会とのかかわり	1	○消費者の基本的な権利と責任について理解することができる。 ・消費者の権利と責任が、ある世界とない世界を考える。 ○消費者の権利と責任がある世界では(つまり消費者が責任ある消費行動をすれば)、商品がよりよく改良されたり、安心して購入できたり、さらなる被害者が減ったりすることを理解する。 ・わたしたちの消費行動が変わると○○が変わることに気付く。→ ○○に入る言葉は、社会、未来、世界など	①消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 <u>指導に生かす評価</u> ・行動観察 ・ワークシート <u>記録に残す評価</u> ・ポートフォリオ ・ワークシート		①よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ②よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
持続可能な社会の構築に向けて	2 (本時)	○自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫させることを目的とする。 ・前時の復習として、「わたしたちの消費行動には社会を変える力がある」ということをおさえ、本時の学習問題である「世界を変えるために、わたしたちはどんな消費行動をしたらよいのだろう」を提示する。 ○自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫することができる。		①自立した消費者としての責任ある消費行動について、問題を見いだして課題を設定している。 ②持続可能な社会の構築に向けた取組について理解を深め、世界を変えるためにどのような行動をしたら良いかについて考え、工夫している。	③主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自立した消費者としての責任ある消費行動について工夫し創造し、実践しようとしている。 <u>指導に生かす評価</u> ・行動観察 ・ワークシート ・コラボノートなど

<p>持続可能な社会の構築に向けて</p>	<p>2 (本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班員で異なる課題に取り組み、エキスパート活動を行なう。 ・わたしたちの消費行動に関わる光の部分（享受している便利で快適な生活）と影の部分（便利で快適な生活のためにおこっている世界的な課題）をヒントにすることで、世界を変えるためにどんな消費行動を取ればいいのかを考えられるようにする。 ・ワークシートを作成する。 ・エキスパート活動の内容を自分の班に戻り班員に伝える。（ジグソー活動） ・さまざまな実践可能な消費行動を知り、視野を広げる。（クロストーク活動） <p>○消費者の責任ある行動がとれるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界を変えるために自分はそのような消費行動をとればいいのかを考察していく。 		<p>③自立した消費者としての責任ある消費行動について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>④自立した消費者としての責任ある消費行動についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</p> <p>指導に生かす評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・コラボノート ・ワークシート <p>記録に残す評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート <p>①自分の消費行動の中から問題を見いだして課題を設定している。</p>	
<p>消費者としての責任ある消費行動（計画）</p>	<p>3</p>	<p>○これまでの学習を振り返り、よりよい生活を送るためには、家族や地域の人々とどのように関わり、協働していけばいいかを考え、自分にできる実践計画を立て、実践しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にできる本当に責任ある行動を考え、実践計画を立てる。 		<p>①自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>②持続可能な社会の構築するために、環境や社会に配慮した消費生活について実践に向けた計画を考え、工夫している。</p> <p>指導に生かす評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・コラボノート ・実践ワークシート <p>記録に残す評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践ワークシート 	<p>①家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、自分や家族の消費生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②家族や地域の人々と協働し、自分や家族の消費生活について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <p>③主体的に取り組んだり、振り返って改善したりし</p>

					て、自分や家族の消費生活について工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。
	家庭・地域での実践				指導に生かす評価 ・行動観察 ・実践ワークシート ・コラボノート、ドキュメント、スライドなど
消費者としての消費者としての責任ある消費行動（評価・改善）	4	○グループで報告し合い、課題についてのアドバイスをもらったり、他者の報告を聴いて自分の改善につなげようとしていたりして、引き続き実生活に生かしていこうとしている。		③自分や家族の環境や社会に配慮した消費生活について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④自分や家族の環境や社会に配慮した消費生活についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	記録に残す評価 ・行動観察 ・実践ワークシート ・コラボノート、ドキュメント、スライドなど ・報告会レポート（相互評価含む） ・振り返りシート
				記録に残す評価 ・実践ワークシート ・報告会レポート（相互評価含む） ・振り返りシート	

6 本時の指導(2/4時間)

(1) 本時の目標

私たちの消費行動には世界を変える力があるということに気づき、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫している。 (思考力、判断力、表現力等)

(2) 指導過程

【第1時(前時)】

学習活動(○教師の働きかけ ・生徒の反応)	形態(時間)	・支援、留意点など □評価
○「家族で買い物」の学習では、エシカル消費について考え、買う前に良く考えて買う、大切に長く使う、優先順位を考えて買うなどの意見が出ていたね。 みんながよりよい消費生活を送るためには、どのような決まり	全体(3)	・前時までのプリントを振り返らせ、トラブル事例について課題提起できるようにする。

<p>が必要かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪質な業者は取り締まってほしい。 ・良い商品を作ってほしい。 ・私たちの消費生活を支えるものとして、消費者の基本的な権利と責任があるのかな。 		
<p>消費者の権利や責任が「ない社会」と「ある社会」はどんな違いがあるだろう。</p>		
<p>○「消費者がもつ権利と責任第一部」のパワーポイントを観てみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まりがないとこういう世の中になるのか。いやだな。 <p>○「消費者がもつ権利と責任第二部」のパワーポイントを観てみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、消費者には権利があるから、困った時に主張することができるのか。 ・消費者基本法があるから消費者である私たちは守られている。 ・自分たちの消費行動が社会に良い影響を与えることができるかもしれない。 <p>○「オーガニックコットンのタオルを買う」という消費行動は、どんな消費者の権利と責任と関わりがあるかを考えよう。</p> <div data-bbox="336 1048 721 1323" style="text-align: center;"> <p>地球にも人にもやさしい選択 オーガニックコットン</p>  <p>Organic Cotton.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・安全である権利、知らされる権利、選ぶ権利、社会的関心をもつ責任、環境への自覚責任とかかな。 <p>○全体発表で内容を確認する。</p> <p>○立場を変えて、コットン生産者にとってどんな権利と責任があるのかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コットン生産者の生活の基本的ニーズが保障されそう。 ・健全な環境の中で生活する権利に関わりがあるな。 ・生産者の権利が守られることになるのかな。 <p>○わたしたちの消費行動は投票と同じだね。「わたしたちの消費行動が変わると〇〇が変わる」の〇〇に入ることばを考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会」かな。 ・「未来」とか「世界」も変えることができそう。 <p>今回は、私たちの課題について考えるよ。</p>	<p>全体 (8)</p> <p>全体 (6)</p> <p>個人 (3) ↓ グループ (10)</p> <p>全体 (10) 個人 (5)</p> <p>全体 (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例をイラストにしてわかりやすく学べるようにする。 (資料: 静岡大学消費生活研究サークル作成・色川卓男研究室監修「消費者がもつ権利と責任第一部」「消費者がもつ権利と責任第二部」より) ・生徒の意見の価値付けとして、自分の身近な消費行動が消費者の権利と責任と関わっていることを理解できるよう、具体的な場面の例を提示する。 ・グループでの話し合いをもたせて、より理解が深まるようにする。 ・スライド資料を使用しながら、消費者と生産者という立場を変えて考えられるようにする。 □消費者の基本的な権利と責任について理解している。 □自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 (行動観察・ワークシート)

【第2時(本時)】

学習活動(○教師の働きかけ・生徒の反応)	形態(時間)	・支援、留意点など □評価
<p>○前時では、消費者の権利と責任について学習し、私たちの消費行動が、社会や未来、世界を変えていくかもしれないことがわかったね。</p> <p>・自分の消費行動で世界を変えられるかもしれないなんて驚きだ。</p>	全体 (5)	<p>・前時の内容を想起させるため問いかけながら、スライドで振り返る。</p>
<p>世界を変えるために、わたしたちはどんな消費行動をしたらよいのだろう。</p>		
<p>○班員で異なる課題に取り組み、同じ課題のグループに分かれて考えてみよう。(エキスパート活動)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A【地球温暖化】たくさんの電化製品を使っている現状(光)とCO2の排出がもたらす現状(影)</p> <p>B【石油製品】家庭内のプラスチック製品(光)と海岸漂着物(影)</p> <p>C【児童労働】チョコレート(光)とカカオ農園での児童労働(影)</p> <p>D【食品ロス】スーパーの品揃え(光)と飢餓に苦しむ子供(影)</p> </div> <p>・CO2の排出量を減らし地球温暖化を防ぐために、電気の使用量を減らす。</p> <p>・貧困をなくすために、フェアトレード商品を買う。</p> <p>○自分の班に戻り、班員に伝えよう。(ジグソー活動)</p> <p>・マイクロプラスチックを減らすために、マイバッグを持ち歩く。</p> <p>・買う行動の中にも、持続可能な社会のためにできることがあるそうだな。</p> <p>○「本当にできること」は何だろう。その行動によってどう変わるだろう。班で話し合い、多様な意見を出してみよう。(クロストーク活動)</p> <p>・続けられないと意味がないな。</p> <p>・カッコいいことよりも、本当にできることが大事だな。</p> <p>・半額シールが貼ってあるものを買うことは、食品ロスを減らすことにつながるかな。</p> <p>・おまけのおもちゃをリサイクルショップに持って行く。</p> <p>・自分にもできることがたくさんあるな。</p> <p>○自分が本当にできる消費行動を記入しよう。</p> <p>・食べ物を買う時に手前取りをすることなら、自分にもできて続けられそう。そうすれば店が廃棄する食品が減るから。</p> <p>・みんなの意見で視野が広がり、参考になった！</p>	<p>エキスパート (10)</p> <p>ジグソー (8)</p> <p>クロストーク (20)</p> <p>個人 (5) ↓ 全体 (2)</p>	<p>・エキスパートの班になり、一班一台Chromebookを使って入力する。</p> <p>・エキスパート資料を共有しながら話し合いをすすめ、コラボノートに入力していく。</p> <p>・Google検索で情報を得ながら、具体的な消費行動を考えることができるようにする。</p> <p>・グループ内で活発な意見交換ができるよう机間指導で助言する。</p> <p>・さまざまな課題に対しての実践可能な消費行動があることに気づき、視野が広がるように再度問いかける。</p> <p>・ワークシートは、自分が本当にできる行動だけでなく、その理由や根拠を記入できるようにする。</p> <p>□自立した消費者としての自分の消費行動について、世界を変えるためにどのような消費行動をしたら良いか考えている。(行動観察、ワークシート)</p>

【第3時(次時)】

学習活動(○教師の働きかけ・生徒の反応)	形態(時間)	・支援、留意点など □評価															
<p>○前時で考えた実践課題について振り返ろう。 ・もっと他のことにも挑戦してみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 世界を変えるためにわたしはどんな消費行動をしたらよいのだろう。実践可能な計画をたてよう。 </div> <p>○自分の生活を振り返り、これまでの学習内容を基にしながら持続可能な社会を構築するための具体的な消費行動を考え、自分にできる実践計画を立てよう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「私は、食品ロス削減に取り組んで食べ残しをなくします」</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・家にあるのに買ってきてしまう。 ・買ったのに使わず捨ててしまう。 ・作りすぎて残してしまう。 ・好き嫌いで食べない。 ・安いからと言っていらぬものを買う。 ・賞味期限、消費期限が過ぎてしまい捨てる。 ・外食で頼み過ぎて残す。 <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; flex-grow: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> ・捨てられた食べ物をゴミとして処理するために多額のお金がかかる。 ・可燃ゴミとして燃やすことで CO2 排出 →地球温暖化の要因 ・焼却後の灰の埋め立てによる環境問題 ・大量の食べ物が無駄になり、今の状況が続くと人口増加に伴って栄養不足によって苦しむ人がますます増え、貧困に拍車がかかる。 </div> </div> <p>→SDGs: 11住み続けられる…12お店や消費者のところで捨てられる食料を半分に減らす13気候変動に… →選択する権利、健全な安全が確保される権利、環境の配慮責任、社会的弱者への配慮責任</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 今までよりも食品に対する考え方が良くなった(満足) </div> </div>	<p>グループ (10)</p> <p>個 (15)</p>	<p>・前時で記入した実践課題の内容を振り返る。</p> <p>・持続可能な社会を構築するための消費行動が「具体的な消費行動」欄に記入できるようにする。</p>															
<p>○実践計画内容をグループで共有し、アドバイスをもらおう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 家で食べきれ的分だけ作った方が良いよ。 </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">いつ</th> <th style="width: 15%;">どこで</th> <th style="width: 70%;">どのように</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>買い物の前</td> <td>家</td> <td>・冷蔵庫、食器棚の確認。</td> </tr> <tr> <td>買い物中</td> <td>店</td> <td>・消費期限や賞味期限を見て手前から取る。 ・必要な分だけ買う。</td> </tr> <tr> <td>料理中</td> <td>家</td> <td>・食べきれ分を言い、作ってもらう。 ・嫌いなものを残さず食べる。 ・冷蔵庫の中の余っている食材を使って料理をしてもらう。</td> </tr> <tr> <td>外食</td> <td>店</td> <td>・食べたい分だけ注文。 ・残さず食べる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈結果の取り方〉写真も撮って見やすくまとめる。</p>	いつ	どこで	どのように	買い物の前	家	・冷蔵庫、食器棚の確認。	買い物中	店	・消費期限や賞味期限を見て手前から取る。 ・必要な分だけ買う。	料理中	家	・食べきれ分を言い、作ってもらう。 ・嫌いなものを残さず食べる。 ・冷蔵庫の中の余っている食材を使って料理をしてもらう。	外食	店	・食べたい分だけ注文。 ・残さず食べる。	<p>グループ (10)</p> <p>個 (15)</p>	<p>・意見交換を通して、調査や実験などの実践的・体験的な活動を充実させるよう、留意する。</p> <p>・実践計画に無理がないか、結果の取り方についてなどアドバイスをを行う。(確認印)</p> <p>□自分の消費行動について、どのように改善したら世界が変わるのか構想し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (実践ワークシート)</p> <p>□よりよい生活の実現に向けて自分の生活を振り返り、実生活で確実に実践できることを見つけようとしている。 (実践ワークシート)</p>
いつ	どこで	どのように															
買い物の前	家	・冷蔵庫、食器棚の確認。															
買い物中	店	・消費期限や賞味期限を見て手前から取る。 ・必要な分だけ買う。															
料理中	家	・食べきれ分を言い、作ってもらう。 ・嫌いなものを残さず食べる。 ・冷蔵庫の中の余っている食材を使って料理をしてもらう。															
外食	店	・食べたい分だけ注文。 ・残さず食べる。															

